

# 日刊 勤労千葉

82,2,17

No.970

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(公電)四三二二七二〇七

# 三塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ (才115回定中委にむけた討議試案)「... 勤労の考え方」は、 産業報国運動 そのものだ!

## 全支部・全職場からの怒りの総反撃で 徹底的に粉碎しつくそう!

勤労「本部」革マル反動分子は、働こう運動を「勤労の勇氣ある提言」として「不退転の決意」で勤労四万五千組合員に強制しようとしている。  
国鉄三五万人体制攻撃に対する勤労四万五千組合員の闘うエネルギーと闘いへの決起を圧殺・弾圧し、勤労を産業報国運動へと引きずり込もうとしているのだ。  
全国の闘う勤労組合員の皆さん!  
この「本部」革マル反動分子の恐るべき反動的意図をはつきりと見抜き、今こそ、勤労の戦闘的伝統を守り抜き、勤労大改革・国鉄三五体制粉碎へ共に前進しよう。

「働こう運動は、敗北的後退局面における最良の方針」というペテン性について

まず第一に、勤労「本部」革マル反動分子は、「働き度を高める運動」に対する全組合員の総反撃を予想し、この組合員の正当な意見と闘いへの決起をなげなんでも圧殺し、弾圧しようとしていることである。

- ① 「本部」革マル反動分子の言っていることは、「反合闘争の転換だ」「経営参加路線だ」「三五体制への屈服だ」「いまこそ総抵抗を」「闘いの中から全労働者の総決起をつくれ」というような誰れも否定できない、正しい疑問や意見やアレルギイがある、ことは否めない。
- ② しかし、敗北的後退局面における未曾有の攻撃に対しては、「絶対反対」と叫び「ストライキを打つ」ことでは、資本・権力の術策にはまってしまう。
- ③ 「皮を切らせて骨を切る方針」「犠牲を最小限にいとめ、一定の条件と時期のもとで、ふたたび新たな闘いを挑むための方針とたたかい」「働こう運動」を不退転の決意で提起した。としている。

考えてもみよ! ストライキを完全に否定し、「働こう運動」は生産性向上運動を展開する労働組合が「再び新たな闘いに挑む」などということはどうして出来るであろうか。「働こう運動」でどうして「組織の力をたかめる」ことが出来るであろうか。鉄労をはじめ統一準備会の中心をなす鉄鋼、電力、自動車など右翼労働組合を見れば明らかでないか。

勤労四万五千組合員の全く正当な闘いへの決起をペテンとデマとドウカツで圧殺・弾圧しようとするものである。

「働こう運動」は、国鉄企業防衛運動

「働こう運動」は、断じて当局に対する「闘い」でもなければ、労働組合としての「特殊な戦術」などではないのだ。

「働き度をさらに二割・三割高める」運動が国鉄危機を労働組合自身が積極的に救済しようという国鉄企業防衛運動でなくてなんであるだろうか。全国の闘う勤労組合員の皆さん!

この恐るべき反動的なペテンとデマをつかっただ裏切り方針にだまされてはならない。勤労「本部」革マル反動分子の反動的意図を見抜き、勤労の産業報国会化を断固として阻止し、勤労「本部」革マル反動分子追放・一掃、勤労大改革を共に闘い抜こうではないか。

全国の闘う勤労組合員の皆さん!  
わが勤労千葉は、三年前の分離・独立をかけた闘いの正当性・正義性にますます自信と確信をもつて、皆さんと共に闘い抜くことを明らかにする。

### 昭和史に見る「産報運動」=「働け運動」の歴史

- 1941年
- 8月30日 重要産業団体令公布
  - 9・2 翼賛議員同盟結成 (326人)
  - 9・2 文部省 学校放送を正式教材と承認し 内容を規定指示
  - 9・6 御前会議 第1次帝国国策遂行要領 (10月下旬対米英蘭戦争準備を完了) 決定
  - 9・12 産業報国会「働け運動」開始
  - 9・18 湖南作戦開始 27日に長沙占領
  - 10・2 10日間にわたり全国一斉に防空訓練 壕生活訓練も登場
  - 10・18 東条英機内閣成立
  - 12・1 御前会議 対米英蘭開戦決定
  - 12・8 対米英宣戦布告

年表資料は、毎日新聞社刊「億人の昭和史」シリーズNo.15「昭和史年表」より抜粋



産業報国会発会式 15年12月10日結成の東京電燈産報

いつか来た道...  
「働け運動」は、戦争への道

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!